

特別展示のご案内

こうふくじちゅうこんどう

興福寺中金堂再建記念事業

「再会—興福寺の梵天・帝釈天」

2017年1月7日(土)～3月31日(金)



根津美術館(東京・港区 南青山)では、奈良・興福寺所蔵の「梵天立像」(重要文化財 定慶作 鎌倉時代・建仁2年(1202))と、当館所蔵の「帝釈天立像」(定慶作 鎌倉時代・建仁元年(1201))の特別展示を、当館1階展示室3にて行うこととなりました。

奈良・興福寺は、7世紀後半に藤原鎌足ふじわらのかまたりの発願により建立された山階寺やましなでらを起源とする古刹です。その歴史は、度重なる罹災からの復興の軌跡でもありました。しかし、享保2年(1717)の大火以降は復興造営が途絶え、続く明治維新の神仏分離・廃仏毀釈により寺は疲弊し、少なからぬ寺宝が流出しました。当館所蔵の帝釈天立像もその1つで、興福寺に残った梵天立像とともに、康慶門下の仏師・定慶により作られたことが、銘文からわかっています。

興福寺は今、2018年に中金堂の落慶法要をひかえ、往時の姿を取り戻しつつあります。中金堂に飾られる「法相祖師画ほっそうそしが」のお披露目の展覧会が2017年1月から東京を皮切りに行われるのに合わせ、興福寺・多川貫首のご厚意により、梵天と帝釈天が長い時を経て当館で再会する運びとなりました。慶派仏師の技を今に伝える美しいみほとけたちをご覧ください。



帝釈天立像
1 軀 像高 183.0cm 木造
定慶作
鎌倉時代 建仁元年(1201)
根津美術館蔵

重要文化財 梵天立像
1 軀 像高 181.3cm 木造
定慶作
鎌倉時代 建仁2年(1202)
興福寺蔵

<作品解説> 興福寺国宝館 金子啓明館長

梵天立像の像内に「建仁二年三月」の年紀と大仏師定慶じょうけい、少仏師盛賀・定賀の名が、帝釈天立像には「建仁元年十二月」、大仏師定慶、少仏師成(盛カ)賀、永賀、慶賀、定賀の銘文が記されている。帝釈天立像は明治時代に興福寺を離れたが、かつては一組の像として興福寺東金堂に安置されていた。

定慶は康慶の弟子と考えられる慶派の仏師であるが、経歴等については明らかではない。東金堂には同じ定慶が建久七年(1196)に制作した維摩居士坐像が残っており、それと対をなす文殊菩薩坐像も定慶かその周辺の作者の作と考えられる。

治承四年(1180)十二月の平重衡の乱による焼失後の興福寺再興では、康慶が南円堂諸像を、運慶が西金堂の本尊像を制作したが、定慶は東金堂と関連の深い仏師であったことがわかる。定慶の表現には中国風の衣装や装飾を積極的に取り入れた円熟した写実性があり、康慶や運慶とは異なる独自の作風が認められる。

<梵天像と帝釈天像の再会に寄せて> 法相宗大本山興福寺 多川俊映貫首

ペアの像は二つで一つ——。一具であってこそ意味がある。仏教の守護神、梵天と帝釈天はその代表であろう。

かつて興福寺東金堂に所在したそれらのうち、一部破損していた帝釈天立像が、当山の維持・徒弟教育基金設置に協力した益田鈍翁に渡り(明治年間)、後、根津美術館の所蔵するところとなった。

私は予ねてより、この別れ別れになったペア像の並立展観を夢みていたが、このほど念願がかない、心は浮き立っている。



南青山自邸2階にて(昭和8年)
初代・根津嘉一郎と帝釈天立像

<特別展示 開催概要>

展示名： 興福寺中金堂再建記念事業「再会—興福寺の梵天・帝釈天」

主催： 公益財団法人 根津美術館

特別協力：法相宗大本山興福寺

企画協力：日本経済新聞社

展示場所：根津美術館 1階 展示室 3（仏教美術展示）

展示期間：以下の2展覧会会期に準じる。

2017年1月7日（土）～2月19日（日）コレクション展「染付誕生400年」

2017年3月4日（土）～3月31日（金）特別展「高麗仏画—香り立つ装飾美—」

休館日： 上記2展覧会会期中の月曜日、2月20日（月）～3月3日（金）の展示替え休館期間。

ただし、1月9日（月・祝）と3月20日（月・祝）は開館し、1月10日（火）と3月21日（火）閉館。

入館料： コレクション展「染付誕生400年」 一般1100円 学生800円

特別展「高麗仏画—香り立つ装飾美—」 一般1300円 学生1000円

*本特別展示観覧のみの別料金は設定しておりません。上記入館料をお支払いください。

入館料相互割引プラン：

本特別展示期間中に限り、日本橋・高島屋で開催予定の以下の展覧会または当館の対象展覧会の観覧済み鑑賞券を、もう一方の展覧会の入館料お支払い時にご提示いただくと、入館料が100円引きとなります。ご鑑賞にご利用ください。

・興福寺中金堂再建・法相柱柱絵完成記念「興福寺の寺宝と畠中光亨」展

2017年1月11日（水）～1月23日（月）東京・高島屋日本橋店

・根津美術館 対象展覧会

2017年1月7日（土）～2月19日（日）コレクション展「染付誕生400年」ならびに

2017年3月4日（土）～3月31日（金）特別展「高麗仏画—香り立つ装飾美—」

<中金堂再建について> 法相宗大本山興福寺より

奈良・興福寺は、平成22年に創建1300年を迎えました。私たちは、この佳節をいっそう意義あるものにするため、かねてより《天平の文化空間の再構成》を合言葉に、境内の史跡整備事業を展開しています。

その境内整備の眼目は、享保2年（1717）の大火で焼失したままになっております中金堂の再建で、おかげさまで工事は順調に進み、全体の約八割が終了。現在は内陣の須弥壇を造築中で、それに引き続き、大扉や連子窓などの設置が予定され、平成30年秋10月の落慶も、いよいよ近づいております。

<根津美術館について>

根津美術館は、実業家 初代・根津嘉一郎（1860-1940）のコレクションを基礎として、私邸のあった南青山の地に1941年に開館しました。収蔵品約7400件には、「燕子花図屏風」（尾形光琳筆 18世紀）など国宝7件、重要文化財87件、重要美術品94件が含まれ、絵画、書蹟、彫刻、陶磁、漆工、染織、考古など多岐にわたる日本と東アジアの古美術品によって構成されています。2万㎡を超える広大な敷地には茶室が点在し、緑豊かな庭園が四季を彩ります。 公式ホームページ：www.nezu-muse.or.jp

展覧会に関するご質問、広報画像のご要望は、以下へお問い合わせください。

お問い合わせ先：

公益財団法人 根津美術館 学芸部広報課（所・村岡・羽田） press@nezu-muse.or.jp

Tel. 03-3400-2536

〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

*上記情報は、発表日現在のものです。内容は予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。